

A 語句と読み

- (1) 占いや道術にすぐれた人（＝塞翁）
- (2) これといった理由もなく
- (3) にげて／逃げる /×「死ぬ」。「亡」は逃亡の亡
- (4) 見舞う。なぐさめる /×「葬式をする」
- (5) 数か月たって /「居る」＝時が経過する
- (6) ひきゐて／引き連れて
- (7) 祝う

B 句法

- (8) 反語 /「何遽ぞ～んや」＝どうして～だろうか、いや～ない
- (9) 不可能（～できない） /反語と重なって二重になっている

(10) よい出来事にも悪い出来事にも同じ理屈をあて、目先の幸・不幸で決めつけていない

C だれの動作か

- (11) 近所の人々
- (12) 近所の人々
- (13) 塞翁（術を善くする者）と、その子

D 口語訳

- (14) これがどうして福とならないことがあるうか、いや、きっと福となるにちがいない。
- (15) これがどうして禍とならないことがあるうか、いや、禍となるかもしれない。
- (16) （その子は馬から）落ちて、そのものの骨を折ってしまった。
- (17) 働き盛りの男たちは、弓の弦を引いて戦った。

E 内容・記述（解答例）

- (18) 駿馬が増えて、家がよい馬をたくさん持つ豊かな状態になったこと。
- (19) 財産である馬が逃げてしまったから。(十七字)
- (20) 逃げた馬がすぐれた馬を連れて帰ったから。(十九字)
- (21) とりでの近くに住む人のうち、十人に九人までが戦死したということ。「十九」は十分の九=大多数の意。
- (22) 子が落馬で足を悪くしていたため兵役をまぬかれ、父もそばに残れたから。(三十三字)

(23)

馬が逃げる（不幸）→駿馬を連れ帰る（幸）→子が落馬して骨を折る（不幸）→兵役をまぬかれ生き残る（幸）。(五十一字)

F 文学史

- (24) 『淮南子（えなんじ）』（人間訓）
- (25) イ（世の中）／「じんかん」と読む

【現代語訳（全文）】

とりでの近くに住む人に、占いや道術にすぐれた者がいた。その馬がこれといった理由もなく逃げて、北方の異民族の地に入ってしまった。人々は皆これを見舞った。その老人が言うには、「これがどうして福とならないことがあろうか、いや、きっと福となるにちがいない。」

数か月たって、その馬は異民族のすぐれた馬を引き連れて帰ってきた。人々は皆これを祝った。老人が言うには、「これがどうして禍とならないことがあろうか、いや、禍となるかもしれない。」

家はよい馬に富むようになった。その子は乗馬を好み、落ちてもの骨を折ってしまった。人々は皆これを見舞った。老人が言うには、「これがどうして福とならないことがあろうか、いや、きっと福となるにちがいない。」

一年たって、異民族が大挙してとりでに攻め込んできた。働き盛りの男たちは弓の弦を引いて戦った。とりでの近くに住む人で、死んだ者は十人のうち九人にのぼった。この親子だけは、足が不自由であったという理由で、父子ともに無事でいられた。